

皮膚科領域における Pivampicillin の使用経験

綱 脇 ヒ ロ 子

九州大学医学部皮膚科学教室（主任：占部治邦教授）

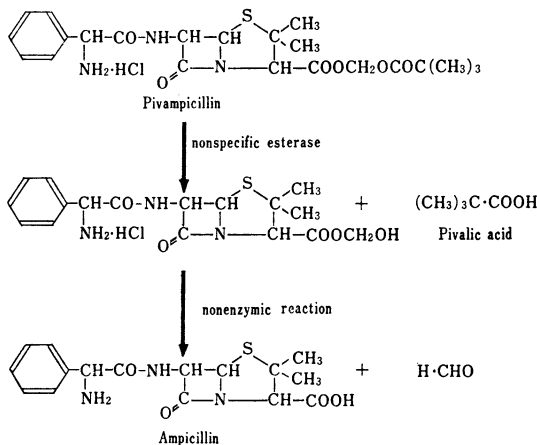
皮膚科領域における化膿菌による炎症性疾患は、比較的遭遇する疾患の一つであるが、近年、抗生物質は数多く開発され、感染症の治療は容易になってきた。このたび、われわれは三共株式会社より提供を受けた新抗生物質 CS-390 (Pivampicillin) を九大皮膚科外来患者25例にたいして投与したところ、優れた成績がえられたので報告する。

Pivampicillin について

Pivampicillin は1969年 Denmark Leo 社にて開発された Ampicillin の pivaloyloxymethyl ester である。化学名は Pivaloyloxymethyl D- α -aminobenzyl-penicillinate hydrochloride と称し、Ampicillin の新規誘導体である (Fig. 1)。

本剤そのものは抗菌力はないが、生体内で速やかに分解されて、Ampicillin となり抗菌作用を発揮するといわれている。

Fig. 1 Structure of pivampicillin



対 象

皮膚科的疾患25例で、年齢は19才から70才までの男子14例、女子11例にたいして、つぎにのべる投与方法にしたがい Pivampicillin を投与した。疾患別では、瘡瘍9 (膿

疱性5, 集簇性1, 尋常性3), 癬1, 癬症3, 癩1, 毛包炎3, 化膿性汗腺炎1, 貨幣状湿疹3, 湿疹の二次感染2, 膿痂疹1, 壊死性血管炎の二次感染である。

投 与 方 法

膿疱性瘡瘍の1例を除き、他はすべて Pivampicillin を1回1カプセル、1日4回服用し、投与期間は3日から14日である。なお、7日に満たぬ投与期間例では、副作用が出現したものである。

治 療 成 績

効果判定は、疼痛・圧痛・局部的浮腫・局部的発赤・所属リンパ節腫脹・分泌液の多少などの臨床症状を主とし、細菌学的治療効果も加味し、総合的に判定した。

なお、副作用については、自覚症状・肝機能・血液障害などによって検討した。

結 果

Table 1 のごとく、25例中23例については、臨床的、細菌学的に効果を認め、有効率92%であった。また、25例中11例については著効を示し、著効率44%であった。なお、症例1の壊死性血管炎 (検出菌は、*Klebsiella*) については、投与中に潰瘍辺縁部に痒性紅斑が出現し、臨床効果判定困難なため、効果不明とした。(紅斑型発疹が、頸部・顔面・両下肢に出現) 同症例では、細菌学的には効果を認めている。

菌種別についてその効果をみると、Table 2 のごとく *Staphylococcus* が25例中21例検出され、*Staph. aureus* が10例に、*Staph. epidermidis* が12例に検出され、その感受性テストによると、ABPC に感受性100%の成績であり、*Klebsiella* 1例についても ABPC に感受性があった。なお、臨床的に細菌感染を思わしめ実際には、有意に細菌を検出されなかった例を2例、ABPC 感受性陰性の *Pseudomonas* 検出例1例を認めた。

副作用については、25例中9例に認められ、その殆んどが上腹部不快感・胸やけ・食欲不振などの胃腸症状を呈したが、2例について紅斑型発疹、血液検査した3例

Table 1 Therapeutic effect with pivampicillin.

Case			Diagnosis	Bacteria isolated from pus	Dosage		Evaluation of effect	Side effect
No.	Name	Age			Dose (cap)	Days		
1	T.A.	45	Necrotic angitis	<i>Klebsiella</i>	4	7	(±)	Erythematous skin eruption, Granulocytopenia.
2	T.N.	25	Acne vulgaris	<i>Pseudomonas</i>	4	7	(-)	-
3	H.M.	20	" "	<i>Staph. epiderm. Enterobacterium</i>	4	7	+	-
4	M.M.	20	" "	<i>Staph. epiderm.</i>	4	14	+	-
5	T.U.	20	Acne conglobata	<i>Staph. epiderm.</i>	4	14	+	-
6	S.T.	19	Acne pustulosa	<i>Staph. epiderm.</i>	4	7	#	-
7	K.G.	24	" "	<i>Staph. epiderm.</i>	4	14	#	Epigastric discomfort
8	K.S.	24	" "	<i>Staph. epiderm.</i>	4	13	+	-
9	Y.Y.	35	" "	<i>Staph. epiderm.</i>	6	11	+	-
10	S.Y.	22	" "	<i>Staph. epiderm.</i>	4	7	+	-
11	M.M.	29	Suppurative hidrosadenitis	<i>Staph. aureus</i>	4	8	##	-
12	S.O.	18	Folliculitis	<i>Staph. aureus</i>	4	3	+	Gastric pain, Pyrosis
13	M.O.	23	"	<i>Staph. aureus</i>	4	14	#	-
14	K.K.	70	"	<i>Staph. aureus</i>	4	6	#	-
15	Y.M.	25	Furuncle	<i>Staph. aureus</i>	4	4	##	Erythematous skin eruption
16	Y.K.	18	Furunculosis	<i>Staph. aureus</i>	4	7	+	-
17	M.M.	62	"	<i>Staph. aureus Staph. epiderm.</i>	4	14	##	Anorexia
18	T.N.	22	"	<i>Staph. epiderm.</i>	4	4	#	Epigastric discomfort
19	Y.U.	33	Carbuncle	<i>Staph. aureus</i>	4	7	#	-
20	M.S.	19	Eczema nummulare	<i>Staph. aureus</i>	4	14	#	-
21	T.H.	57	" "	Unknown (-)	4	5	+	Pyrosis, Nausea
22	S.K.	29	" "	<i>Staph. epiderm.</i>	4	8	#	-
23	N.Y.	25	Eczema (secondary infection)	(-)	4	7	+	Constipation 6
24	K.K.	39	" "	<i>Staph. epiderm.</i>	4	7	+	-
25	S.N.	23	Impetigo	<i>Staph. aureus</i>	4	17	#	Nausea, Vomiting, Epigastric discomfort

Table 2 Detected bacteria (23 cases)

	Case	Sensitivity to ABPC		History of the antibiotic use
		(+ ~ 卅)	(-)	
<i>Staphylococcus aureus</i>	10	10	0	3
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	12	12	0	2
<i>Klebsiella</i>	1	1	0	1
<i>Pseudomonas</i>	1	0	1	0

のうち1例については顆粒球減少症の出現をみたが、いずれも一過性のもので、投与中止後間もなく消失した。また、肝機能 (GOT, GPT, Al-phos) ならびに腎機能検査 (蛋白尿, BUN) した2例では異常値は認められなかった。

考察と結語

九州大学皮膚科の感染性皮膚疾患25例にたいし、CS-

390 (Pivampicillin) を1日4カプセル投与した結果、92%に有効、44%に著効を呈した。副作用出現率は36%であった。なお、感染性皮膚疾患のうち、合併疾患を有するものについては、外用療法を加えており、効果判定については、その点も加味し多少減じて行なった。また副作用出現例では、早期に投与を中止した例もあり、今後、副作用の点につき考慮すれば治療効果の発現を著明ならしめるだろうと考える。

おわりに、Pivampicillin の提供をいただいた三共株式会社学術部に感謝します。

文 献

- 1) 第21回日本化学療法学会総会シンポジウム
“Pivampicillin” 昭和48年6月21日
- 2) “Pivampicillin” 三共株式会社学術部 (Merck & Sharp & Dohme, Research Laboratories)

CLINICAL EXPERIENCE OF PIVAMPICILLIN IN THE FIELD OF DERMATOLOGY

HIROKO TSUNAWAKI

Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Kyushu University

(Director : Prof. HARUKUNI URABE)

Four capsules of CS-390 (pivampicillin) were administered daily in 25 cases of infectious skin diseases. Positive effects were obtained in 92% of the cases, and excellent effects in 44%. Side effects appeared in 36% of the cases. Among the infectious skin diseases, additional external treatment was performed for those with complications. The effects were evaluated while taking into consideration this factor. In some cases with the appearance of side effects, administration of the drug was discontinued early. If the side effects are considered the positive effects will appear more distinctly.